

## 特定健診・保健指導における健診項目等の見直しに関する研究

研究代表者 永井 良三 自治医科大学学長

### 研究要旨

本研究では、循環器疾患の発症リスクを軽減させる予防介入のあり方を最新のエビデンスや国際動向、技術動向を踏まえて検討した。研究班では、「健診項目等の検討」、「施策実効性の検討」の課題に応じて、「疫学グループ」、「施策グループ」の2つの分科会を設けた。健診項目等の検討では、脳・心血管疾患の発症予測能、予防介入可能性の視点から、既存および新規の項目を検討し、今回検証した多くの項目は独立指標として脳・心血管疾患等を予測している一方で、必須健診項目以外の異常所見には、それ自体に対する明確なエビデンスがある介入手段がないことが多く、実際の予防は併存する前述の必須健診項目への介入と考えられた。施策実効性の検討では、健診および健診後の意識・行動変容を促す仕組みを一体的に設計し、保健事業の実効性を高める方策や、重症疾患の発症率の構造を明らかにすることで、早期介入の重要性が示された。政府の骨太方針下で進められる経済・財政一体改革では、国民の健康寿命の延伸を重要な柱として、社会保障においても Key Performance Indicators (KPI) を設定している。地域および職域集団の特性を可視化し、全体最適を図る施策の設計と同時に、健診を起点とした保健事業の検証を継続し、施策の立案にフィードバックしていくことが希求される。次頁以降、それぞれの分科会ごとに整理した。

尾形 裕也

東京大学政策ビジョン研究センター健康経営  
研究ユニット 特任教授

磯 博康

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学  
教授

津下 一代

あいち健康の森健康科学総合センター  
センター長

苅尾 七臣

自治医科大学循環器内科学 主任教授

三浦 克之

滋賀医科大学公衆衛生学部門 教授

宮本 恵宏

国立循環器病研究センター予防医学・疫学情  
報部 部長

岡村 智教

慶應義塾大学衛生学公衆衛生学教室 教授

古井 祐司

東京大学政策ビジョン研究センター健康経営  
研究ユニット 特任助教

